第３回「左京みらいデザイン会議」　摘録

１　日時

令和８年９月２４日（木）　午後１時３０分から

２　場所

左京区役所　中会議室１

３　出席者

氏名	役職等
川勝　健志　◎	京都府立大学社会科学部　教授
熊谷　聡	市民公募委員
長谷川　英文	特定非営利活動法人大文字保存会　理事長
松瀬　萌子	久多里山協会　理事
松本　惠生	京都市地域包括支援センター・在宅介護支援センター連絡協議会　副会長
和田　紘子	大原社会保険労務士法人　代表 株式会社ハッピーワークデザインラボ　代表取締役 CEO
大江　明生	区長
小谷　直子	副区長
矢野　裕史	左京区役所地域力推進室　左京の魅力づくり推進・山間地域振興課長
近西　茂	左京区役所地域力推進室　左京の魅力づくり推進係長
森田　健治	左京区役所地域力推進室　左京の魅力づくり推進担当係員

〔◎は座長〕江藤委員、山口委員は都合により欠席

４　内容

⑴　次第１「左京区まちづくり運営方針について」（資料３、資料４）

６月に策定した左京区まちづくり運営方針について、改めて委員へ報告。前回会議で出た主な御意見への対応について、事務局から説明。

→委員からは特に意見なし。

⑵　次第２「令和９年度の取組について」（資料５）

事務局から、資料に沿って令和７年度の取組実績及び令和８年度取組状況（区 Hub によるまちづくり推進事業予算に係る取組）を説明したうえで、次年度予算編成に向けて意見を聴取。

ア　主な御意見

（和田委員）

左京区独自予算ということであるが、この予算の目的を確認したい。どのような課題認識をもち、これらの取組を実施・強化してきたのか、あるいは削ってきたのか。また、区役所として、今後どのような取組に力を入れていきたいのか、お聞きしたい。

（事務局）
本予算の経緯としては、以前の予算編成は「ふれあい事業」「健康づくり」「子育て支援」「まちづくり活動支援」等個別の事業について、各部署縦割りで行っていたところ、区役所で必要な予算を一本化し、各区長の判断で、例えば「子育て支援」に力を入れる等、各区の状況に応じた取組を実施できるよう、設定された予算である。
そのうえで、かつては区基本計画、現在では運営方針で設定した中期の目標に対し、それらを実現できるよう、使途を精査し、取り組んできたという経過がある。

（和田委員）
100 周年を見据えた事業の中にある岡崎、チマキザサ、北部山間地域の事業について、チマキザサや北部山間地域については支援が必要な取組や地域として予算が充てられている、ということは理解するが、なぜ岡崎地域での取組に予算をつけておられるのか。

（事務局）
これも経過があり、岡崎地域の活性化について、当初は総合企画局で所管していたが、本庁所属で取り組むべき役割を一定終え、その地域を所管する区役所で引き継ぐこととなり、今に至るものである。

（和田委員）
中小企業等、事業者の立場で申し上げると、事業者が元気になれば地域も元気になると考えている。そのうえで、補助金、交付金等のメニューについて、対象が個人・団体など事業者以外のものが多いように感じる。「子育て」「高齢者」等の分類と同じく、例えば「なりわい」といったような事業者を対象とするものも増やしてほしい。既存のメニューであるのかもしれないが、事業者も対象であることが分かるように、発信の工夫をしてほしい。

（松本委員）
「高齢者にやさしい店」というネーミングを変更してはどうか。最近では高齢者にやさしい姿勢は当然という認識が広まってきており、「ｆｏｒ（～のために）」ではなく「ｗｉｔｈ（～と一緒に）」という視点、認識が広がっていくべきと感じる。高齢者にやさしいとうたう事業者を認定する取組自体は良い。
子どもはぐくみ室において子どもとスマホの関係についての講座を予定されているようだが、関連して高齢者向けのスマホ教室も検討してほしい。
京都ポイントの申請等近年デジタル化が進んでいることや、詐欺被害も増えており、スマホの使い方で困っている高齢者は多い。LINE のやり取りで孤立を防げる等、メリットもあるかもしれない。

学生をいかした取組ができないかと思う。例えば空いている公営住宅を学生に格安で貸し、高齢者のゴミ出しの手伝いや見守りをしてもらったり、団地の草引きをしてもらうことで、団地再生にもつながるなど、それぞれにメリットとなる仕組みを考えられないか。

北部山間地域について、左京キラり市の取組や将来像のとりまとめ等の取組をされているが、企業の力を借りないと、そこで暮らそうという人が増えないのではと思っている。企業を巻き込んだ取組を検討すべきと思う。

また、北部山間地域については移動や買い物が不便なので、何らか予算をつけて支援してもいいのではないか。

区内には学生が多いという特徴を生かし、学生とつなげる観点もよいと思う。一定期間暮らしてみる経験により、今後その地域に暮らしてみたいという人が出てくるかもしれない。

（松本委員）

チマキザサの取組はどういう経緯で始まったものか。

（事務局）

京都市未来まちづくり 100 人委員会の活動の中から生まれた、ボランティアの方が防鹿柵の設置等に取り組むといった市民の活動に、大学の学識者、市の森林関係を所管する部署や左京区役所が参画し、「チマキザサ再生委員会」という組織を立ち上げ、今に至っている。

（松本委員）

私は、宝が池公園で落ち葉から肥料を作る取組を行っている。当初は売るのもどうかと思ったので無料で配ったりしてきたが、今後の目標としては活動されている方が対価を得られるようになればと思っている。北部地域でササの再生に取り組まれているということであれば、協力の余地があるかもしれず、さらに取組を進められるように思った。また、動物園から象の糞を肥料としてもらうなども考えており、できることはいろいろあると思う。

動ける高齢者や障がい者の方は多く、例えば公園管理等の業務は、そうした人たちが活躍できる場かもしれない。高齢者や障がい者が活躍できる仕掛けを検討してほしい。

（松瀬委員）

北部山間地域においても起業支援を求める声がある。まちづくり活動支援交付金等既存の補助金もあるが、額が小さく、補助対象も限定されており使いづらい。地域が求める取組や、製材、食品加工等、地域で生計を立てられそうな事業を行うに際し、200 万円くらいのある程度まとまった金額の起業支援があれば、との声を聞く。

また、できることはたくさんあるはずだが、圧倒的にプレイヤーが少ないという側面もある。

（川勝座長）
先ほどの市営住宅の話のように、単に学生にボランティアで頼むということではなく、学生にもメリットがある形で地域のための活動の一端を担ってもらうようなアイデアが北部山間地域にも持ち込めたらいいのかもしれない。

（松瀬委員）
北部山間地域の民家に学生が一定期間住み込んでいる例もあるが、そのように一定期間地域で暮らしてみることができたらよい。

（川勝座長）
お金があっても人がいないと取組が実現しない。ヒトとカネ、両面併せ持ったアイデアが必要ということかと思う。

（熊谷委員）
健康講座で扱われるテーマは関心のある人が多いが、抽選で外れると次年度まで待たなくてはならない。予算を増額する等により複数回開催できないか。
また、各種検診等、区役所でやっているのを見かけるが、北部に住む方たちは区役所まで出向くことをためらわれるかもしれない。検診や講座等、北部地域に出向いて実施することも検討しては。
ワンコイン学習会について、参加料をとることで参加をためらう原因になりかねない。無料で参加できるよう予算確保を検討してほしい。

（松本委員）
ワンコイン学習会について、専門職向けの学習会で魅力的な話や当事者の体験を聴くのに 500 円なら安いと思う。また安価でも参加料を負担することで学習への姿勢に影響する面もあると思う。

（事務局）
講座を複数回開催する、あるいはデジタルアーカイブ化して参加できなかった方にも見ていただけるようにする等、検討の余地はあると思う。

（長谷川委員）
まちづくり交付金について、類似した申請を一本化することによってより大きな取組ができ、また、申請者にとっても申請書類の作成数の削減にもつながるのではないか。

（松瀬委員）
久多では14年ぶりに新生児が誕生した。北部に住む者としてすべてのサービスを街中と同じように受けられるとは思っていないが、子どもの健診等、北部で受けられたらありがたい、等の話は聞く。可能なものは検討いただけるとありがたい。

（川勝座長）
本日の会議を通して具体的なアイデア含めたくさん意見が出た。これまでと同じ取組だとしても、例えば「高齢者にやさしい」という考え方はもちろん大事だが、それだけでなく「誰にとってもやさしい」かという視点で考える、といったように、見せ方や伝え方の工夫も含め検討できる余地もたくさんあるように思った。
これは運営方針に盛り込んだ考え方に立脚しており、目指す姿の実現につながる考え方かと思う。
支援が必要な特定の属性（高齢者、子育て世代、障がい者、あるいは条件不利地域等）への取組は当然必要だが、それ以外の人もターゲットになっている、ということが伝わると、同じ取組であったとしても意味合いが変わってくる。
また、最近の学生はアルバイトをはじめいろいろ忙しく授業でフィールドワークをするのも敬遠しがちである。学生に参画してもらって、ということを考えるときに、ボランティアや福祉的なマインドだけで協力を求めるのではなく、学生側にもインセンティブ、メリットがある、という仕組みで検討すると、より参画してもらいやすくなるかもしれない。
私が住んでいたカナダにおいては、住民のボランティア経験が人生にポジティブな影響があることが住民自身に広く認識されている。ボランティアを体験するにはインセンティブが要る。

（和田委員）
区制100周年を見据えた地域の魅力創造発信事業について、現在は岡崎地域活性化、チマキザサ再生プロジェクト、北部山間地域魅力創造・発信事業で構成されているように見受けられるが、これだけではないのでは。100周年の取組のコンセプトはどのようなものか。あるいはまだ決まっていないのか。まだ決まっていないのであれば、コンセプトによって100周年事業の内容は変わるという認識で良いか。

（事務局）
100周年の冠をつけた事業については、令和11年4月の区制100周年に向けて次年度（令和9年度）から準備を進める想定で、前出しの意味もあり、令和8年度予算の枠組として既存事業の統合も含め検討しこのような表記になっているものの、100周年に向けた取組の方向性はまだ定まっていない。御指摘のとお

り、内容については今後のコンセプトによって変わってくるものと認識している。

（和田委員）
先日、山科区の区制 50 周年事業に参加してきた。地域の人材の越境、交わりがあり、人材がいかされている印象。地域の人がみんなでつくった企画となっているように感じた。左京区の 100 周年事業の予算についても、個別のバラバラとした取組だけでなく、みんなが一つになって関われるようなものにしてもらえたらと思う。山科区では周年の冠をつけた事業を年間で一覧にしたホームページもあり、今後左京区で周年事業をする参考になると思う。

（川勝座長）
100 周年の節目となる取組は、住民主体で実施されるべきと思う。まちづくり活動支援交付金を受ける団体はプレイヤーとして期待できる人たちである。次年度交付を受ける団体は、各団体が自発的に実施したい取組を前提としたうえで、100 周年に結びつくような意識をもって取り組んでもらうような仕組みにしてはどうか。住民の「やりたい、こういう街にしたい」という思いに対する支援と、行政の「こうしたい」という考えに対し住民に協力を求めるスタンスがあってもいい。両者が組み合わさった事業が増えるといいと思う。

⑶　**次第３「北部山間地域の視察について」（資料６）**

資料に沿って、本会議の委員と左京区北部山間地域の現状や課題を共有することを目的に、北部山間地域の視察を実施することを事務局から提案。

→日程、内容等調整のうえ、進めていくことで合意。松瀬委員から、「北部の課題はいくらでも出てくるが、視察は魅力を知ってもらえる機会になれば」との御意見あり。

⑷　**次第４「その他意見交換」**

特になし。